

セニアカーで津波避難訓練を実施！（伊豆市土肥）



3月6日（日）、静岡県伊豆市土肥で高齢者を対象にセニアカーを使った津波避難訓練が実施されました。この訓練は、東京大学生産技術研究所の加藤孝明教授の発案で津波発生時の避難に高齢者がセニアカーで避難することの有効性を実証するために、伊豆市危機管理課と共同で行われたもので、スズキ(株)が車両提供に協力しました。

伊豆市の土肥地区は南海トラフ巨大地震が発生すると最短6分で10mの津波が到達すると予想され、国、静岡県、伊豆市が重点的に訓練を実施している地域でもあります。また、伊豆半島全体でも住民の高齢化が進み、高齢者の避難は課題となっています。

今回の訓練では、地元住民など約40名が参加し、実際に高齢者に土肥漁港に面した公園から約500m先の海拔10m以上の高台にセニアカーに乗車して移動しました。3台のセニアカーが3か所の避難場所に移動し、途中の坂道での走行の課題や段差の乗り越え、ルート上の障害の課題などが確認できました。

避難所までの最後の上り坂は、セニアカーのカタログ値の10度くらいからスタートし、その後一気にセニアカーで警告音声が流れる15度前後の急こう配になり、標高10mを駆け上がる細い道でしたが、時速6kmでぐいぐい登るセニアカーを見て、「平地でも6kmなら小走りについて行くのに、坂道でこれだけしっかり走るとついて行けん！」と参加した市役所の担当者の方も驚いていました。半信半疑だった地元の方々も、導入を真剣に検討しようと熱を帯びた会話が続けました。

普段は平地で時速6kmを経験するだけしか実感したことはありませんでしたが、確かに

坂道での運転を実際に行ってみると、高齢者にはとても頼りになる移動手段だとあらためて感じます。普段から利用していただければさらにメリットを理解してもらえるでしょう。

「津波が来るまで6分なら、どうせ間に合わないじゃないか」という疑問がわくと思います。しかし加藤教授によると、「津波が来たからお終いだから私は動かない、とあらかじめいる高齢者がたくさんいる。こういう移動手段があると分かれば、助かるかもしれないという希望も見えてきた。今回の実証を通して、さらに有効な手段となるよう課題解決を考えていくことが必要」とのことです。千里の道も一歩から。まずは大きな一歩を踏み出したと感じます。



■ メディアからも注目されています！

- [テレビ静岡（2022年3月8日放送）『高齢者の津波避難の在り方を検証 ハンドル形電動車いすの有効性は 静岡・伊豆市』](#)
- [静岡新聞（2022年3月7日掲載）『電動車いすで高台へ避難 高齢者が乗車体験 伊豆・土肥で津波訓練』](#)